

大腸癌の患者数は増加を続けています！

消化器科 尹 京華

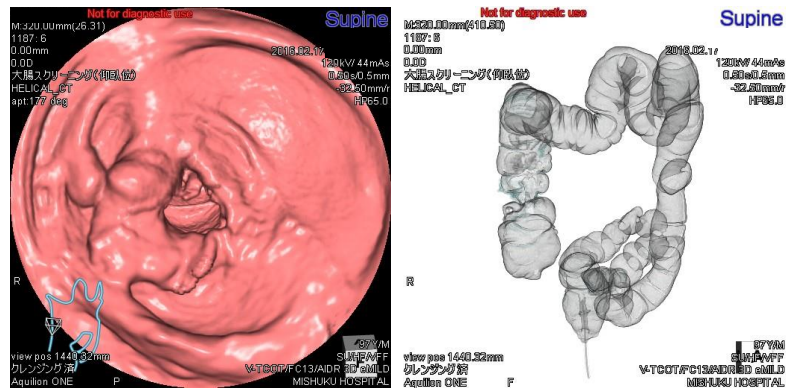
国立がん研究センターがん情報サービスのがん登録・統計によると2015年の大腸癌の罹患数は全癌腫の中で第一位、死亡数は肺癌について第二位と予測されています。

わが国の大腸癌検診の主流である便潜血検査の受診率と精検受診率の低さが大腸癌増加の一因と考えられています。特に便潜血陽性を指摘された被検者の精検受診率の改善が喫緊の課題と言えます。全大腸内視鏡検査は被検者からみれば痛い・苦しいというイメージが強く敬遠されることの多い検査法です。このように侵襲性の高いと考えられがちな内視鏡検査を補完する他の検査法として大腸CT検査が注目されています。

大腸CT検査とは内視鏡を挿入しないため「バーチャル大腸内視鏡検査」とも呼ばれます。肛門から二酸化炭素を注入し大腸全体を膨らませてから360列マルチスライスCTで撮影します。撮影された情報からコンピューター処理によって大腸の立体画像を作成し、大腸ポリープ、癌などの診断を行います。CT入室から検査終了まで15分間程度です(本撮影は6秒間2回です)。病変の発見率は内視鏡とほぼ同等、報告によっては内視鏡よりも優れていると述べている論文も散見されます。

侵襲の少ない大腸CT検査でも被検者には前日からの前処置をきちんと行っていただくことが大切です。私たちが用いている検査食は質・量ともに工夫された検査食で被検者の受容性は良好です。

内視鏡検査に不安の強い患者さんは、ぜひ一度消化器内科(消化管)へご相談ください。



お知らせ

● ノルディックウォーク教室

日時 平成28年6月11日(土)
14:00~(第2土曜日)

場所 三宿病院集合

世田谷公園周辺で実施します。



● ロコモ美立体操

(主催:クリスタルスポーツクラブ)

日時 平成28年6月15日(水)
18:00~19:00

場所 せたがや がやがや館 4階運動室

料金 540円(税込)

講師: 渡會 公治先生
帝京平成大学ヒューマンケア学部 教授
三宿病院整形外科 医師